

児童・生徒の現状・課題

- ・学習面において、自信をもっていない生徒が多い。
- ・国語、数学ともに全国や東京都平均より大きく下回っている。
- ・学校以外で勉強する時間が極端に低い。



学び続ける力を育むための重点目標

○学習の中で選択の場面を積極的に設定することで、生徒が自分の考えをもち、学習できるようにする。



具体的な手だて①

導入で単元の流れを確認し、どのような学習を進めていくかを知り、生徒が計画的に取り組めるように見通しをもたせる工夫を行う。

具体的な手だて②

行事の始まりや終わりに「キャリア・パスポート」を記入し、振り返りをする時間を意図的に設定する。手帳を活用し、PDCAサイクルの実現に努める。



児童生徒調査

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	70.2	75.0	61.9
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	80.4	85.0	83.3

具体的な手だて③

Chromebook やプロジェクターを活用し、教材を共有したり協働学習に取り組ませたりする。



教員調査

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	76.5	85.0	89.4
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	95.6	100.0	94.7

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・自己申告に伴う授業観察の際は、指導案を廊下に準備し、積極的に気軽に授業を見合う機会をつくる。
- ・管理職の授業参観では、選択させる場面を必ず取り入れた授業を全教員が行う。(2学期以降)

総括(7月)

全国学力状況調査の結果を見ると全体的に全国平均を大きく下回っている。各教科での無回答の割合も高い結果となった。基礎的学力の定着はもちろんのこと、知識をもとに応用・活用する力を身に付ける必要がある。そのために、まずは選択の場面を積極的に設定し、生徒が学習の中で必ず自分の考えをもてるようにする。学年の実態に合わせ、選択し個人の能力に合わせて積極的に勉学に取り組む機会を増やし、思考し、表現する力も高めていきたい。

総括(1月)

授業改善に関する研修を基盤とし、各教科の授業において意図的に選択の機会を設けることで、生徒が自分なりの考えを形成できるよう取り組んできた。一方で、学習を自分で計画的に進めているという認識については、教員側の捉えと生徒の実感との間に大きな隔たりが見られる。主体的に学びに向かう生徒を育てていくためには、学習の見通しを明確にするとともに、選択の場面が単なる作業に終わらず、思考を深める活動となるよう、発問の在り方を一層工夫していく必要がある。さらに、授業の振り返りが次の学習へとつながるよう、学習の流れを意識的に構成していくことが求められる。